

5) 勤務前後の TAF-L の差

勤務前後における TAF-L の測定値の差について、WAI と年齢による 4 群間それぞれで検討した。その結果、勤務前後における差(日内変動)が有意であったのは、Excellent-若年群 (p=.033) のみであった。Excellent-若年群における勤務前の TAF-L は 0.831、勤務後は 0.805 であり、その差は 0.0260 (95%信頼区間：0.00031~0.04891) であった。

WAI のカテゴリ別に勤務前後の TAF-L を比較したところ、Excellent では p=.184、Moderate では p=.247 であった。また、年齢群別において、若年群では p=.078、高齢群では p=.546 であった。

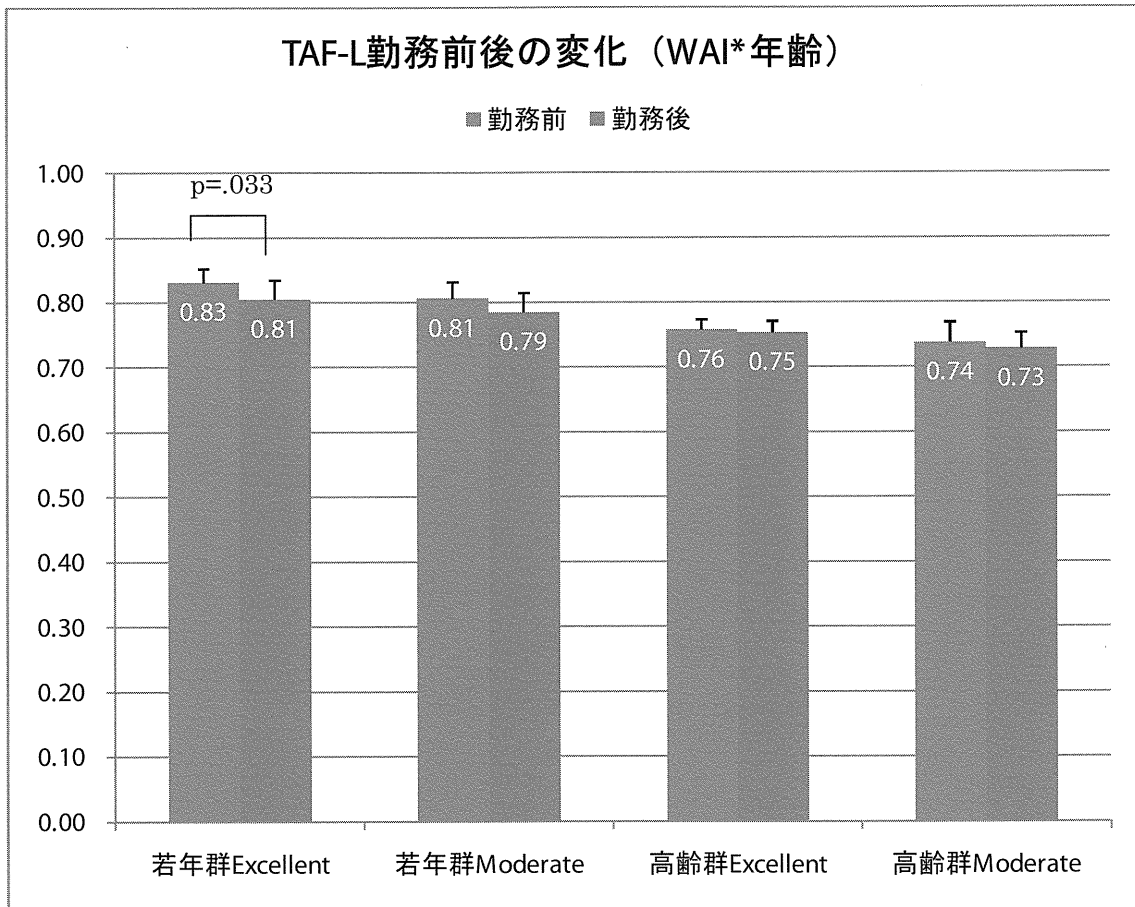


図5-54 勤務前後の TAF-L の変化 (WAI \* 年齢)

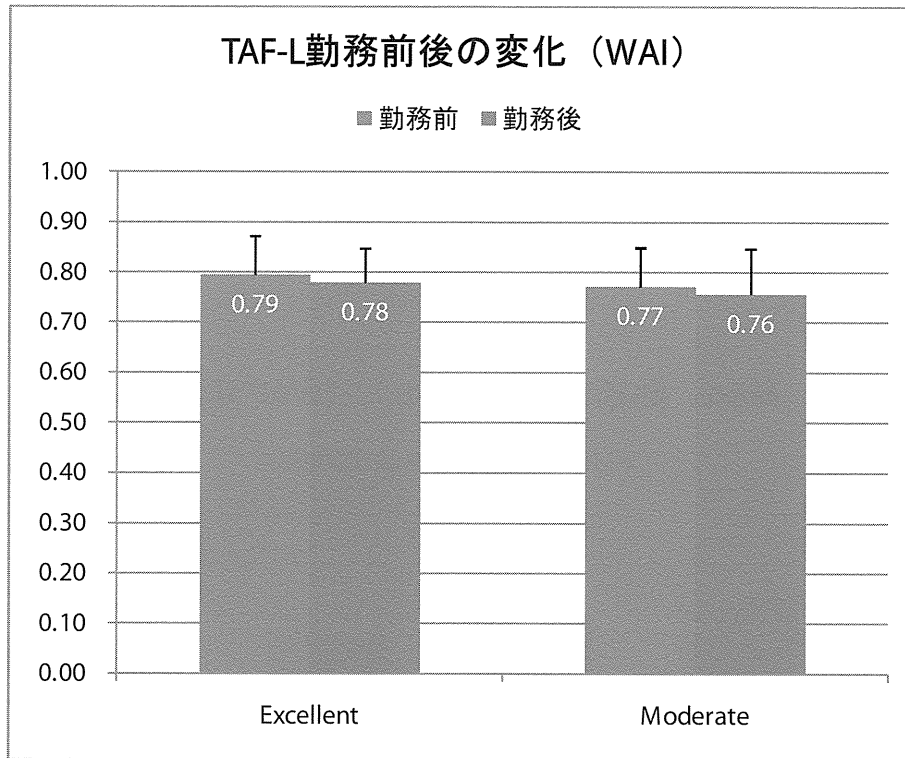


図 5-55 勤務前後の TAF-L (WAI)

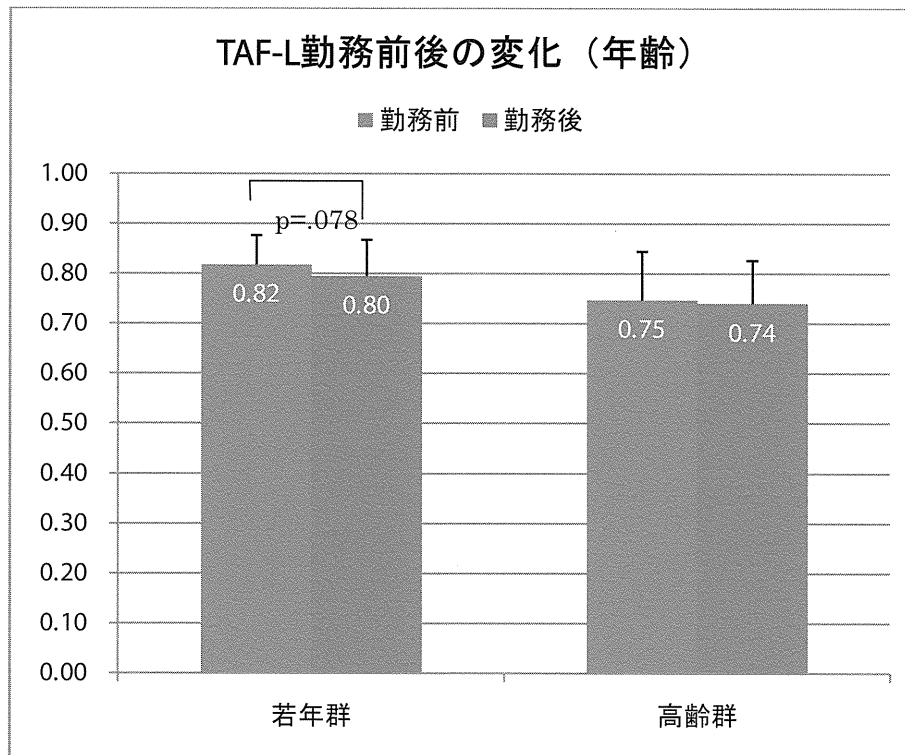


図 5-56 勤務前後の TAF-L (年齢)

6) 曜日別の勤務前後の TAF-L の差

曜日別に勤務前後の TAF-L の測定値の差について検討した。WAI と年齢による 4 群間それぞれで検討した。その結果、勤務前後における差（日内変動）について  $p < .1$  であったのは、Excellent-若年群の水曜日 ( $p = .070$ ) のみであった。次に WAI のカテゴリ別に各曜日の勤務前後の TAF-L を比較したところ、 $p < .1$  であったのは、Excellent の水曜日 ( $p = .016$ ) および、Moderate の水曜日 ( $p = .094$ ) であった。また、年齢群別においては、若年群の水曜日 ( $p = .014$ ) のみであった。若年群では  $p = .078$ 、高齢群では  $p = .546$  であった。

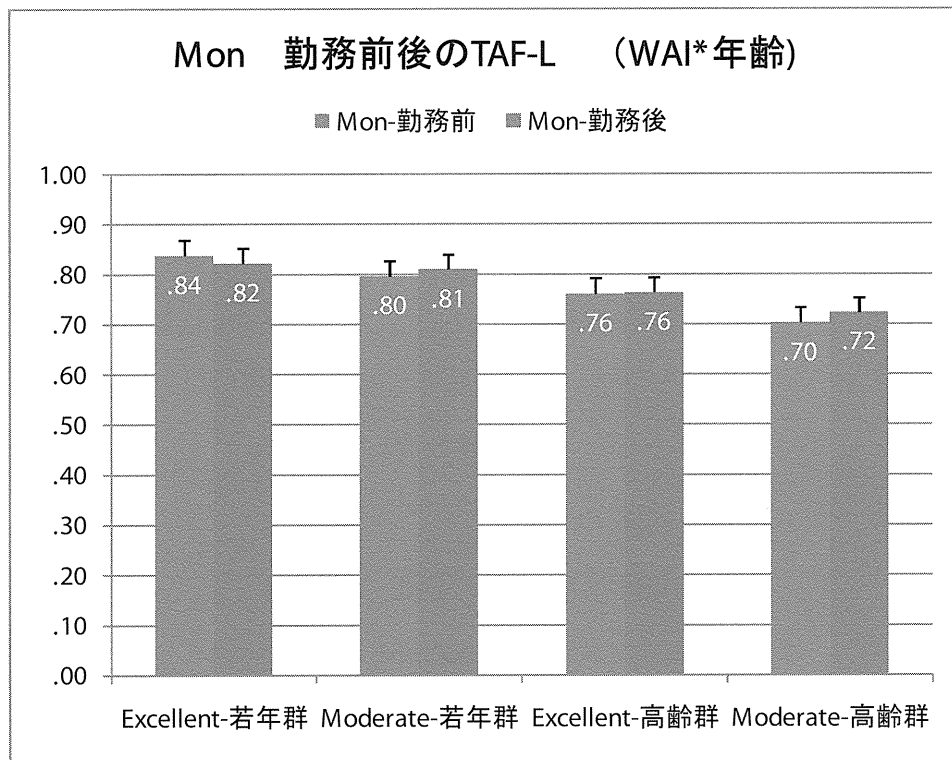


図 5-57 月曜日の勤務前後の TAF-L (WAI\*年齢)

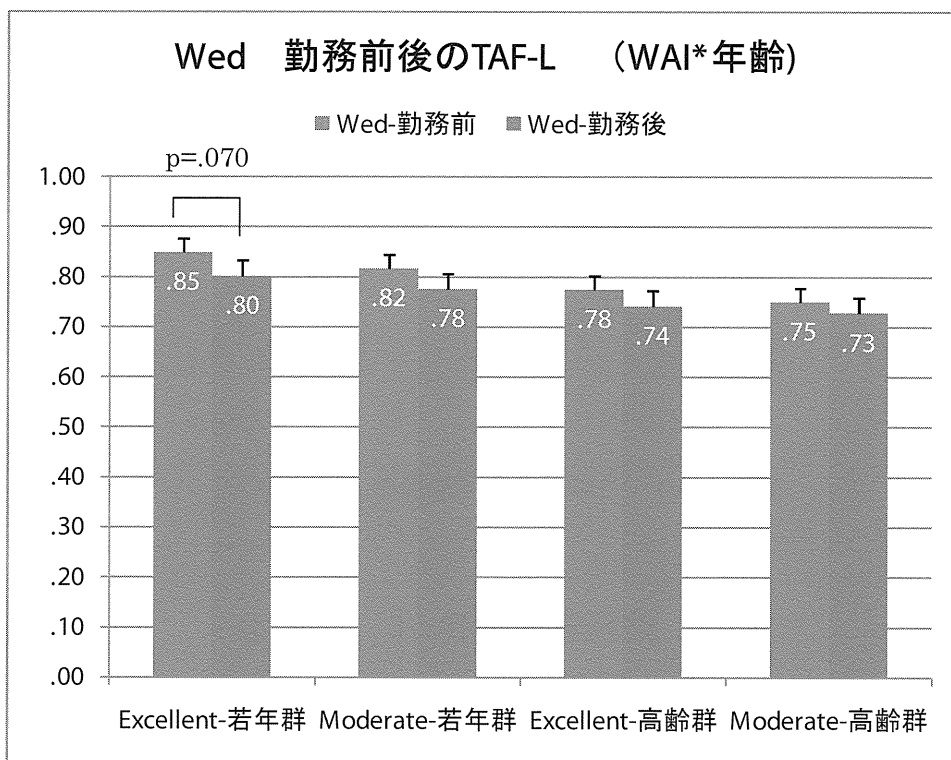


図 5-58 水曜日の勤務前後の TAF-L (WAI\*年齢)

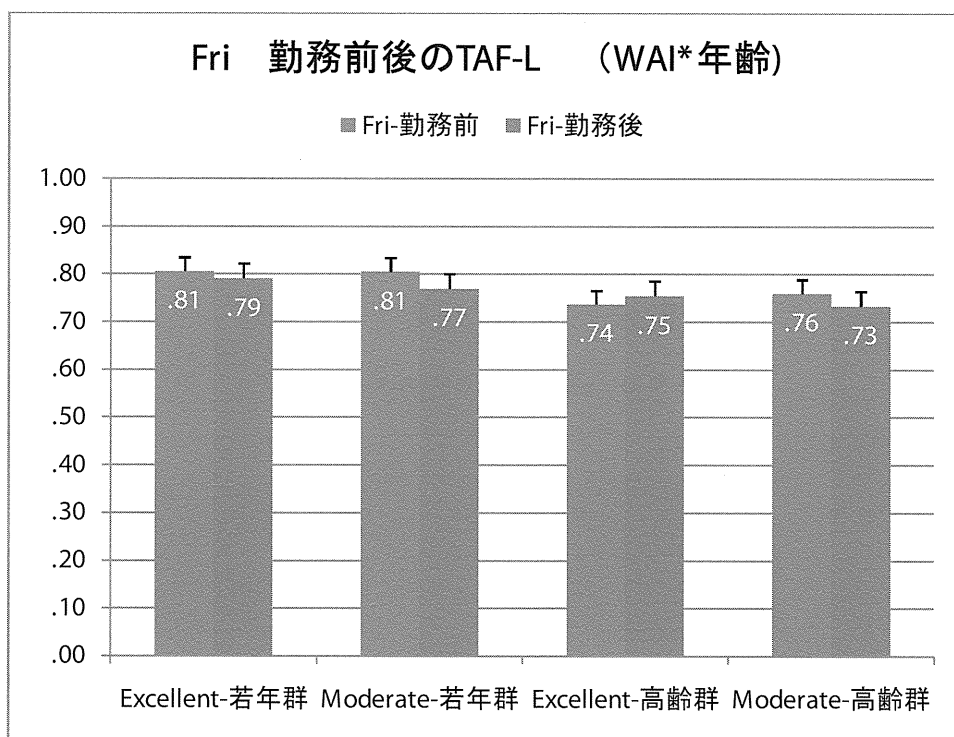


図 5-59 金曜日の勤務前後の TAF-L (WAI\*年齢)

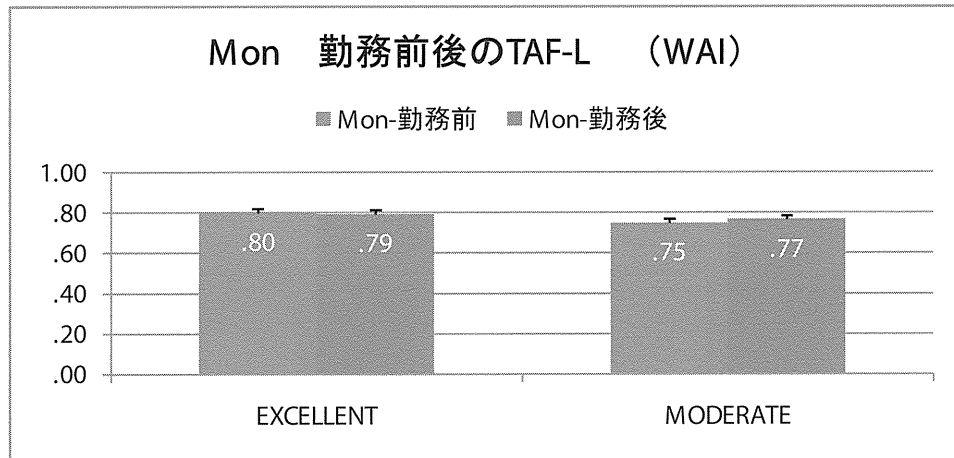


図5-60 月曜日の勤務前後のTAF-L (WAI)

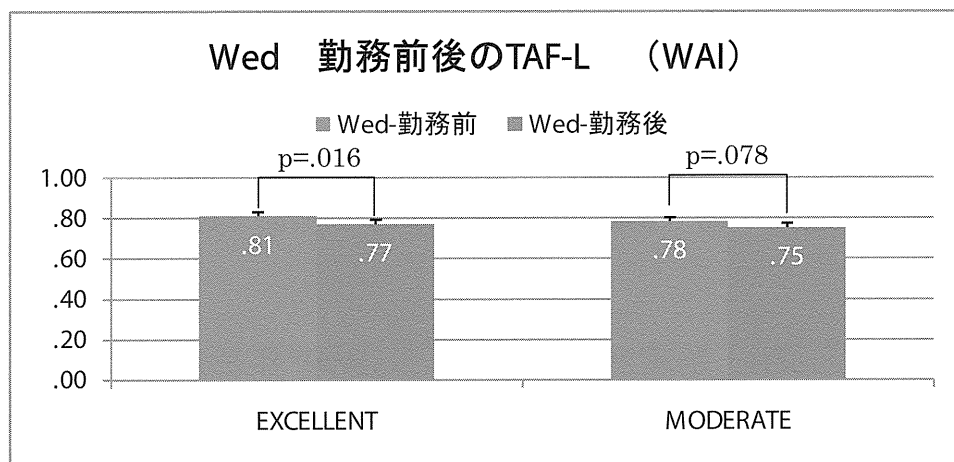


図5-61 水曜日の勤務前後のTAF-L (WAI)

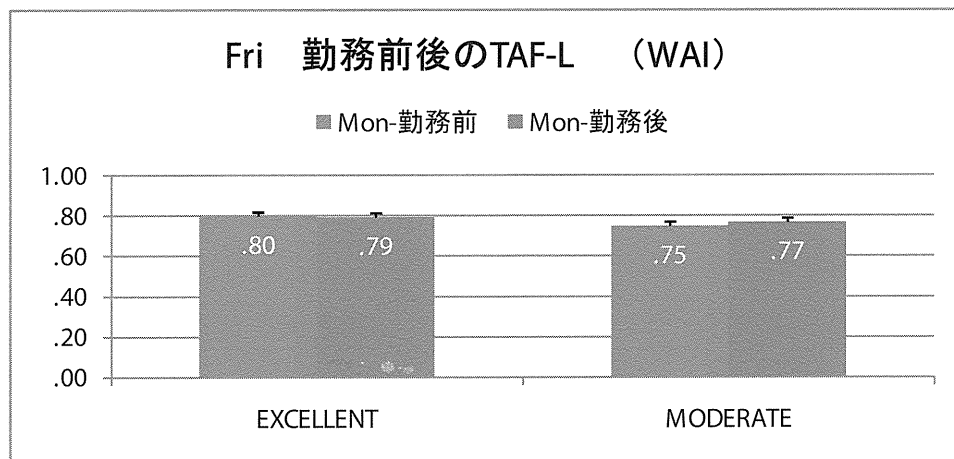


図5-62 金曜日の勤務前後のTAF-L (WAI)

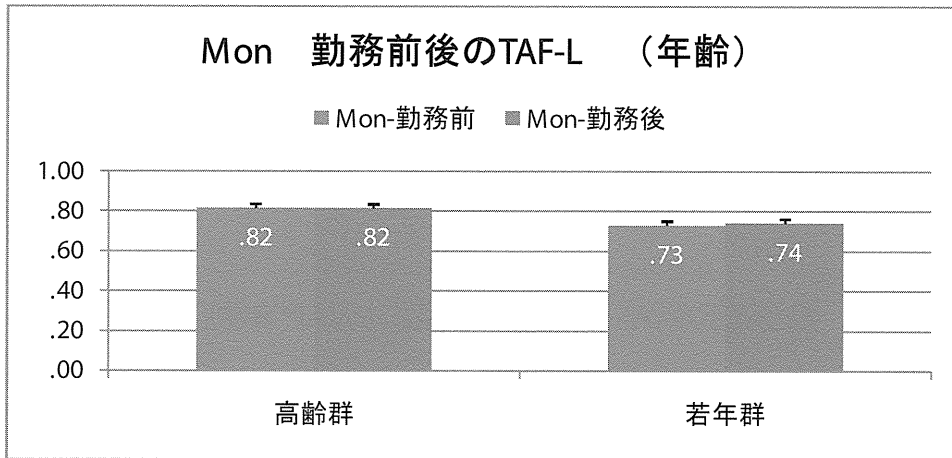


図 5-63 月曜日の勤務前後の TAF-L (年齢)

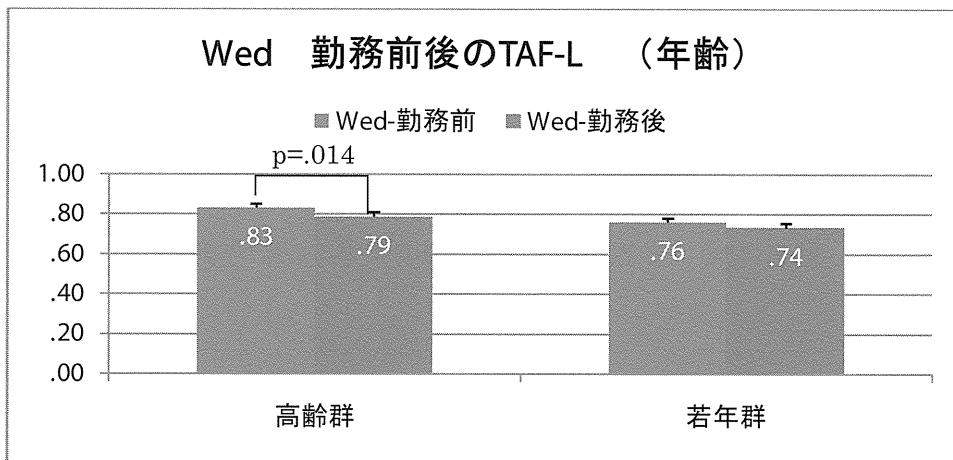


図 5-64 水曜日の勤務前後の TAF-L (年齢)

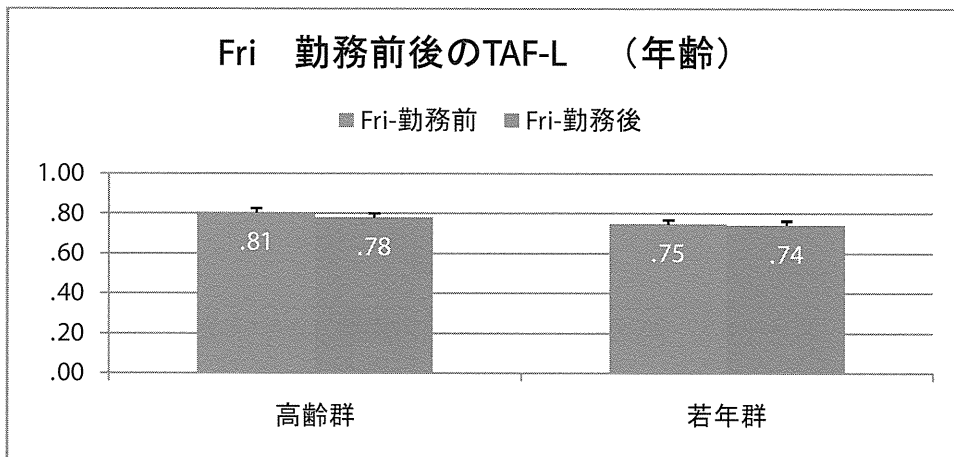


図 5-65 金曜日の勤務前後の TAF-L (年齢)

7) TAF-Lの週内変動

勤務前のTAF-Lにおける週内変動について、WAIと年齢による4群での比較を行った。その結果、週内変動が有意であった群はみられなかった。また勤務後のTAF-Lについても同様の解析を行ったが、週内変動が有意差であった群はみられなかった。同様にWAI別、年齢別に勤務前後のTAF-Lの週内変動についても反復測定分散分析により検討したが、有意差はみられなかった。

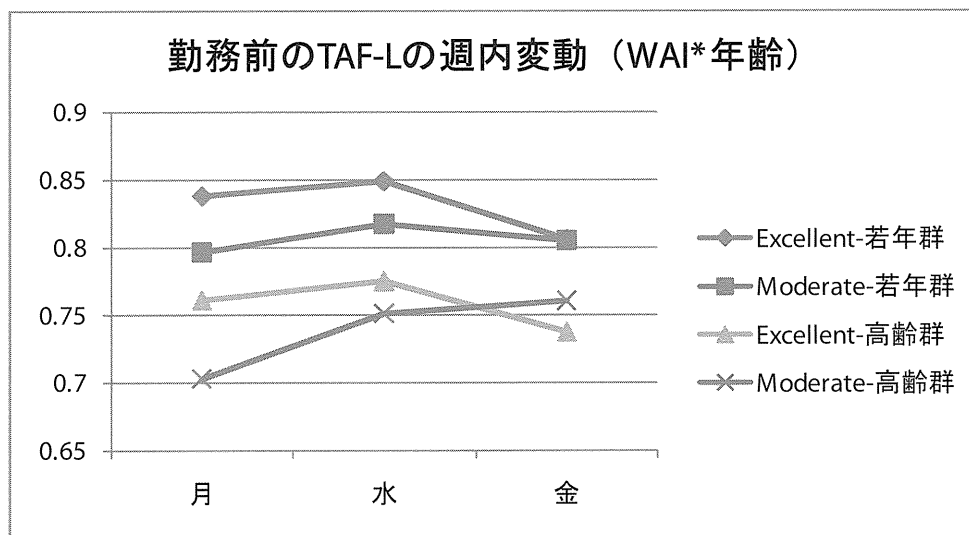


図5-66 勤務前のTAF-Lの週内変動 (WAI\*年齢)

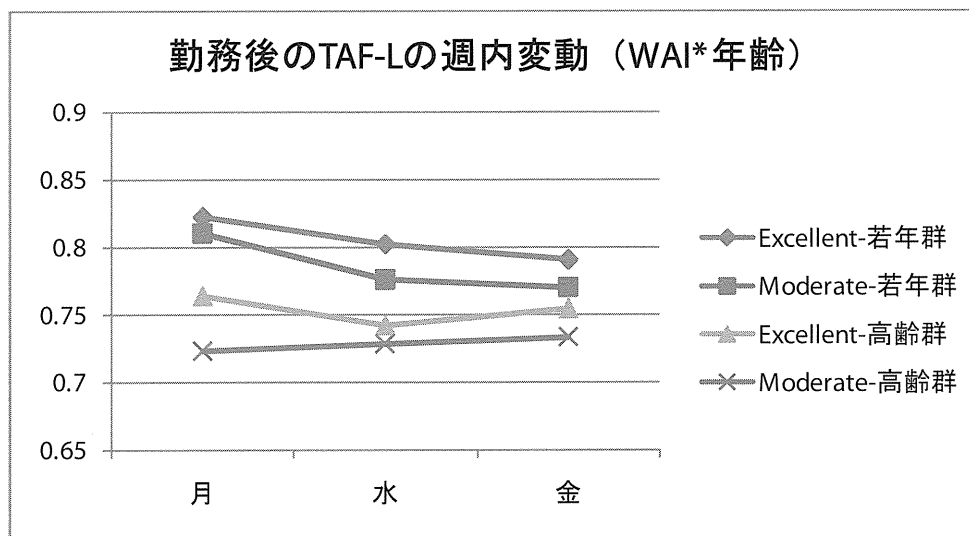


図5-67 勤務後のTAF-Lの週内変動 (WAI\*年齢)

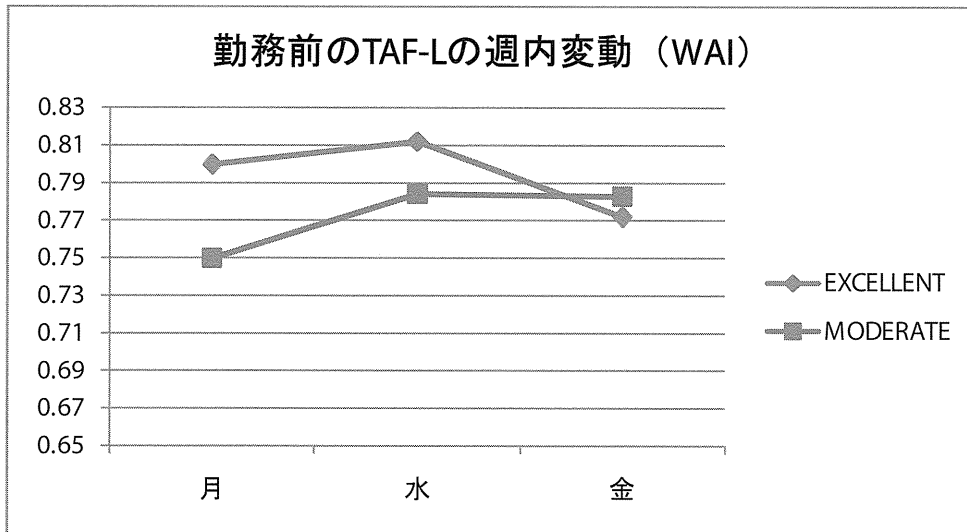


図5-68 勤務前のTAF-Lの週内変動 (WAI)

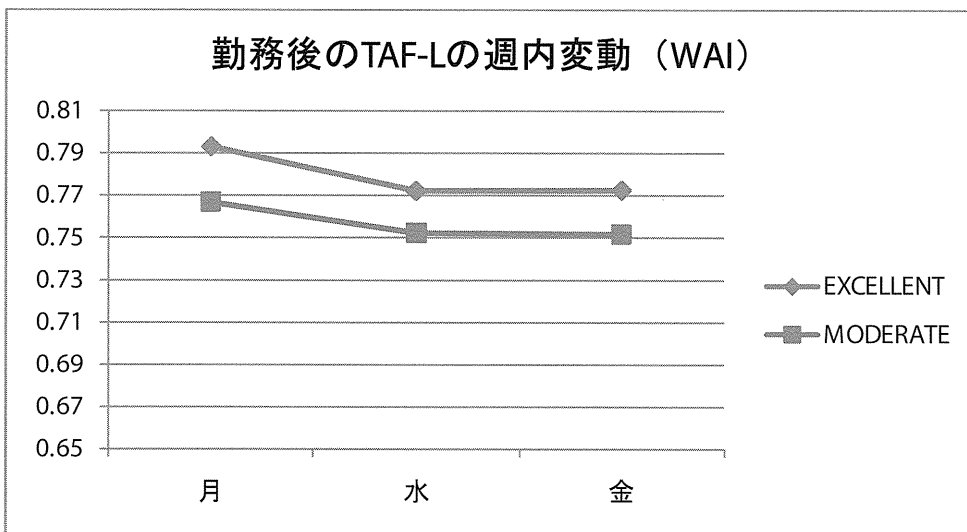


図5-69 勤務後のTAF-Lの週内変動 (WAI)

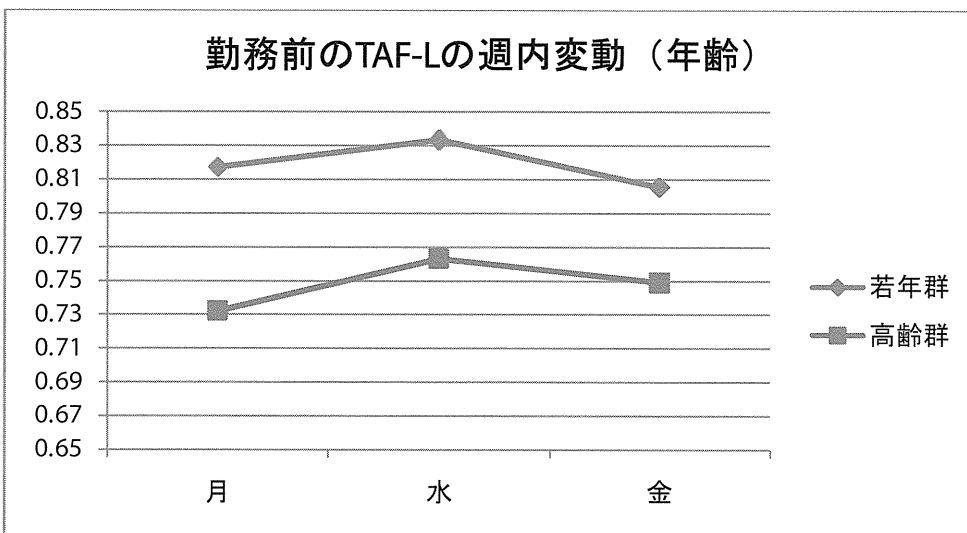


図5-70 勤務前のTAF-Lの週内変動 (年齢)



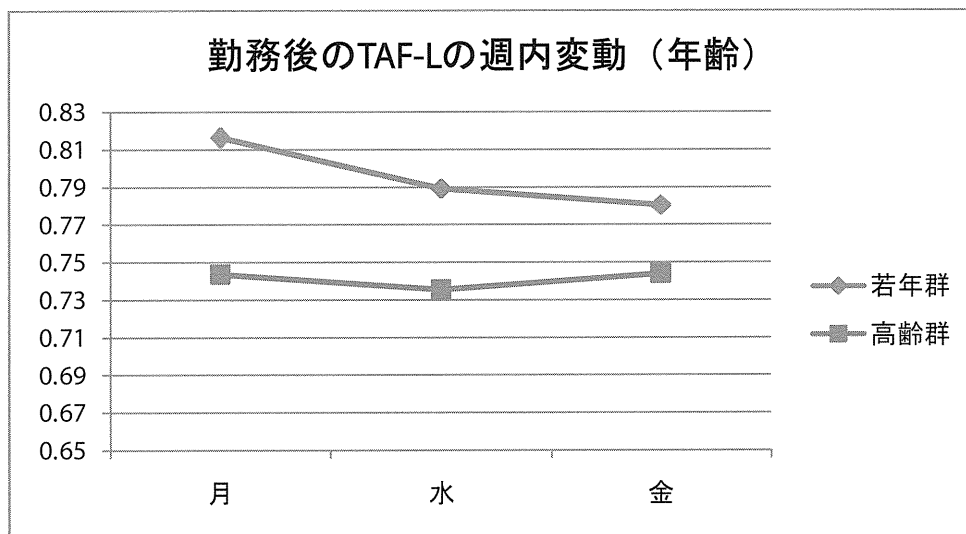


図 5-71 勤務後の TAF-L の週内変動（年齢）

8) 勤務前の TAF-D

勤務前における TAF-D の測定の結果、WAI と年齢の組み合わせにおいて、最もよい数値を示したのは Excellent-若年群の 0.186 であった。次いで、Moderate-若年群の 0.190、Excellent-高齢群の 0.218 であった。WAI と年齢との交互作用は有意ではなかった ( $p=.918$ )。Tukey 法による 4 群の比較では、以下の組み合わせにおいて有意差がみられた。Excellent-若年群 < Excellent 高齢群 ( $p=.021$ )、Excellent-若年群 < Moderate-高齢群 ( $p=.007$ )、Moderate-若年群 < Excellent-高齢群 ( $p=.044$ )、Moderate-若年群 < Moderate-高齢群 ( $p=.014$ )。WAI の主効果は有意ではなかった ( $p=.550$ )。一方、年齢の主効果については有意差がみられた ( $p<.001$ )。

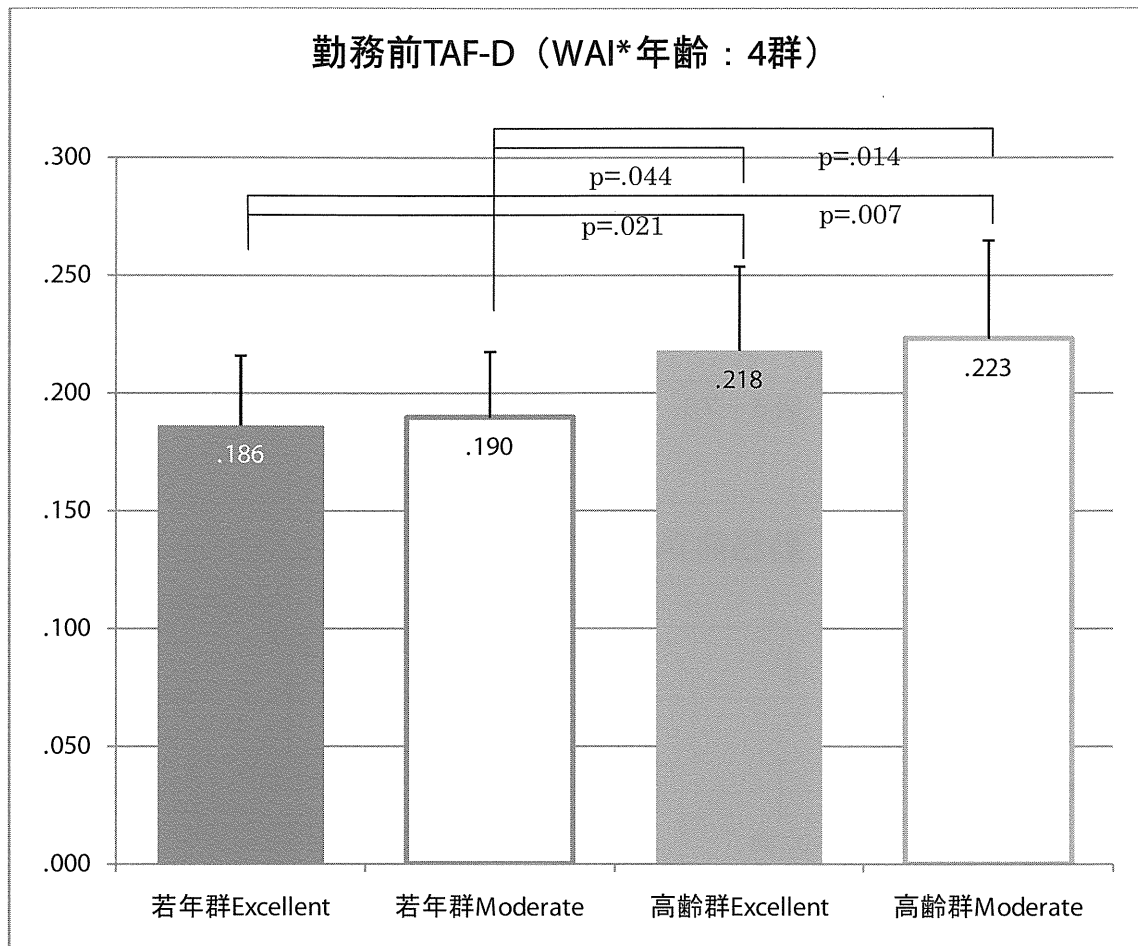


図5-72 勤務前の TAF-D (WAI\*年齢)

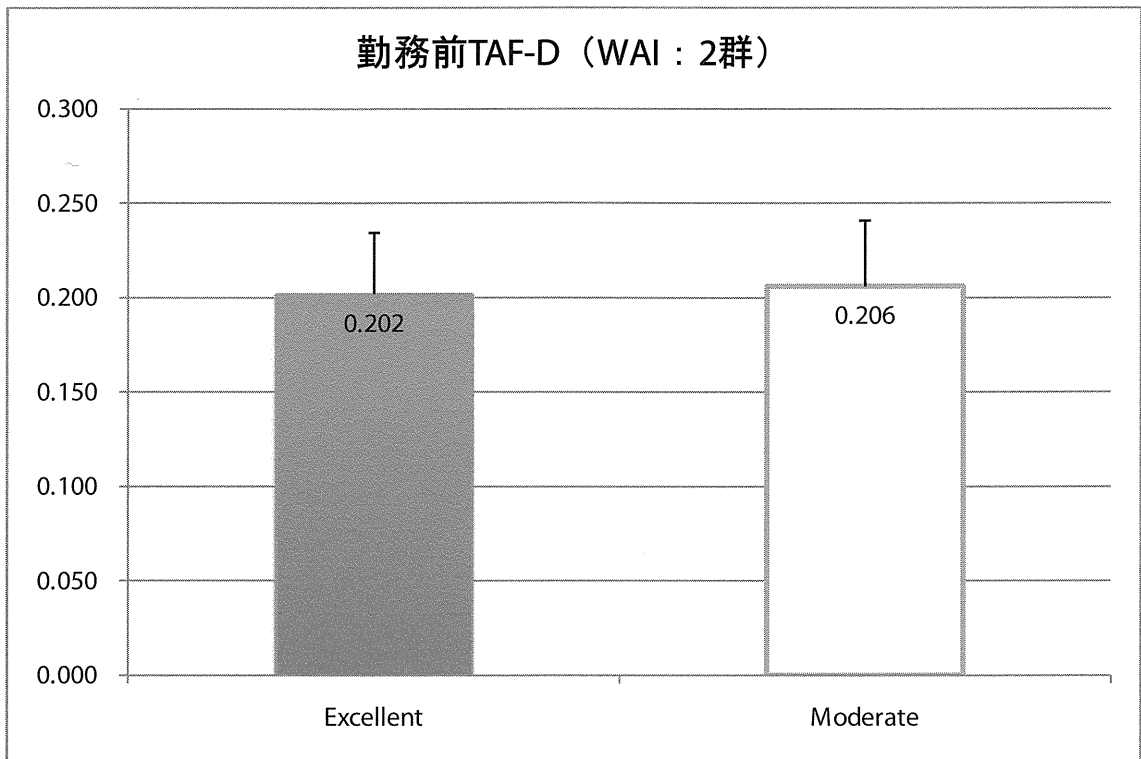


図 5-73 勤務前の TAF-D (WAI)

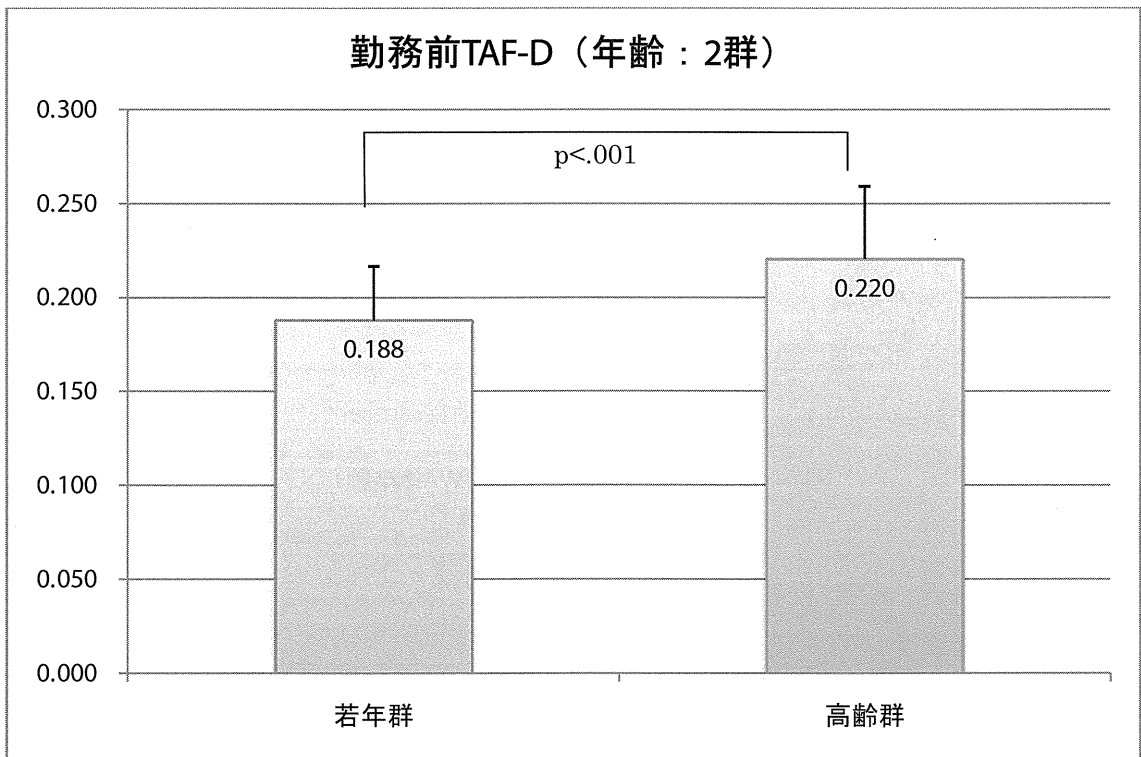


図 5-74 勤務前の TAF-D(年齢)

9) 曜日別の勤務前 TAF-D

勤務前における TAF-D の測定の結果について、曜日別に検討を行った。WAI と年齢の組み合わせにおいて、最もよい数値を示したのは、月曜日・水曜日においては Excellent-若年群（月曜日の TAF-D=. 188、水曜日の TAF-D=. 182）、金曜日においては、Moderate-若年群（TAF-D=. 177）であった。曜日別に 4 群間による分散分析を行った結果、水曜日と金曜日に有意差がみられた ( $p=. 006$ ,  $p=. 013$ )。Tukey 法による 4 群間の比較では、水曜日において Excellent-若年群 < Excellent-高齢群 ( $p=. 0. 68$ )、Excellent-若年群 < Moderate-高齢群 ( $p=. 0. 11$ )、Moderate-若年群 < Moderate-高齢群であった。金曜日においては、Moderate-若年群 < Excellent-高齢群 ( $p=. 029$ )、Moderate-若年群 < Moderate-高齢群 ( $p=. 040$ ) であった。WAI と年齢との交互作用はどの曜日においても有意ではなかった ( $p=. 623 \sim 810$ )。また WAI の主効果は有意ではなかった ( $p=. 350 \sim 489$ )。一方、年齢の主効果については水曜日、金曜日において有意であった ( $p=. 001$ ,  $p=. 002$ )。また月曜日においても年齢の主効果は有意傾向であった ( $p=. 078$ )。

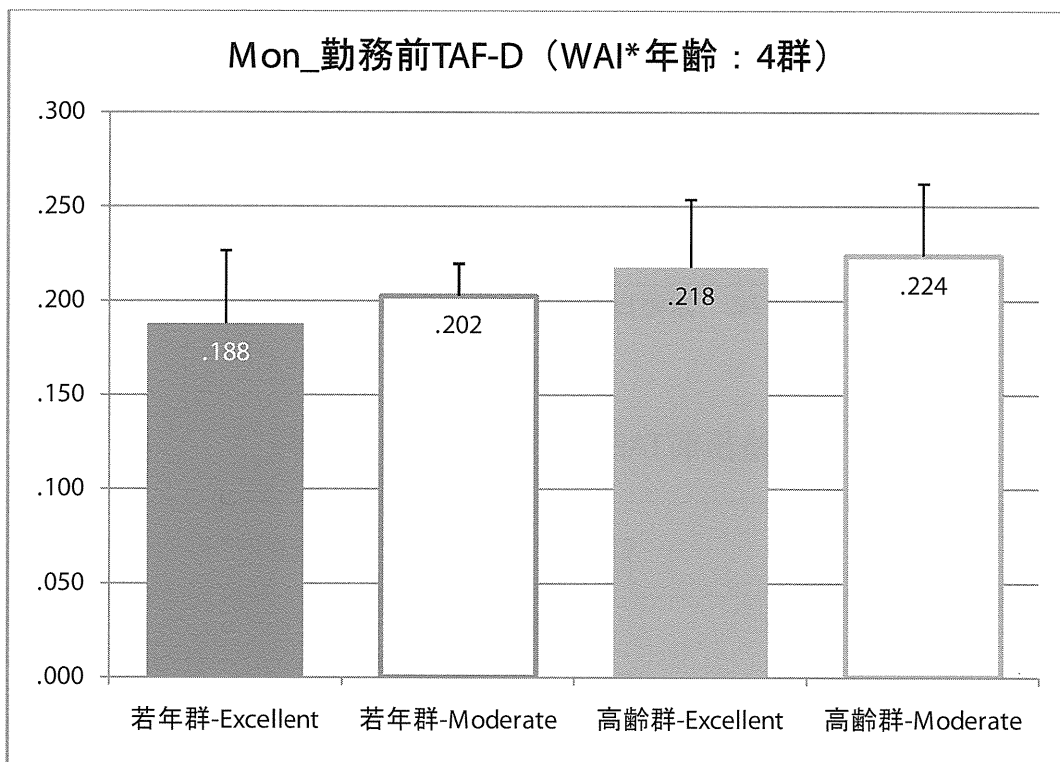


図 5-75 月曜日の勤務前の TAF-D (WAI\*年齢)

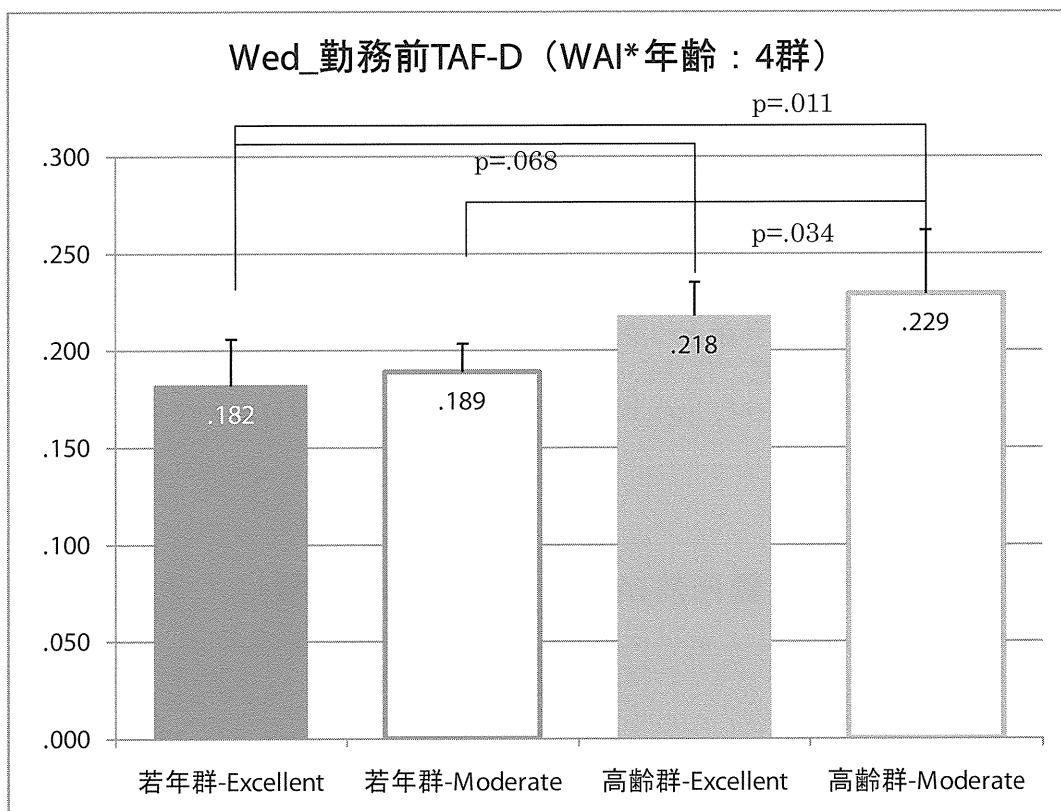


図5-76 水曜日の勤務前のTAF-D (WAI\*年齢)

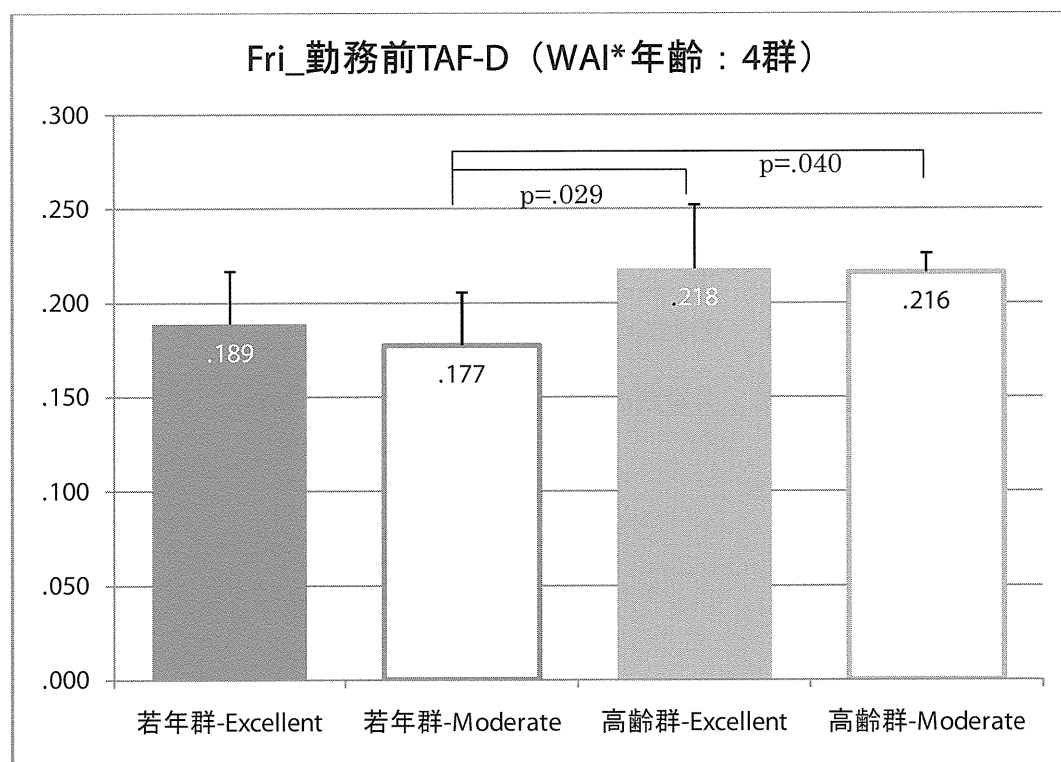


図5-77 金曜日の勤務前のTAF-D (WAI\*年齢)

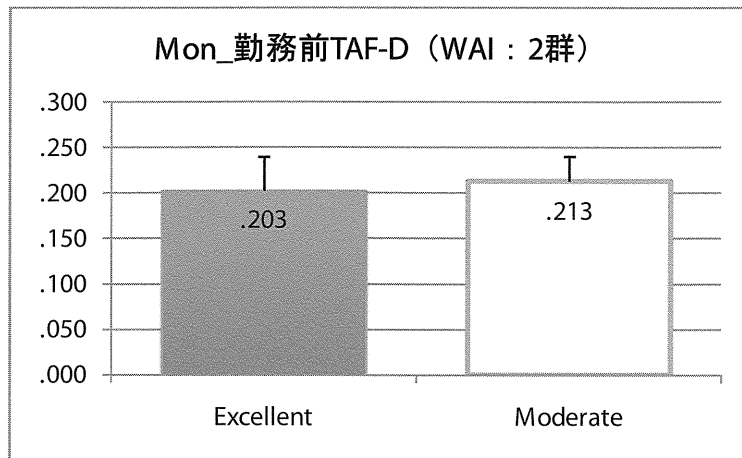


図5-78 月曜日のTAF-D (WAI)

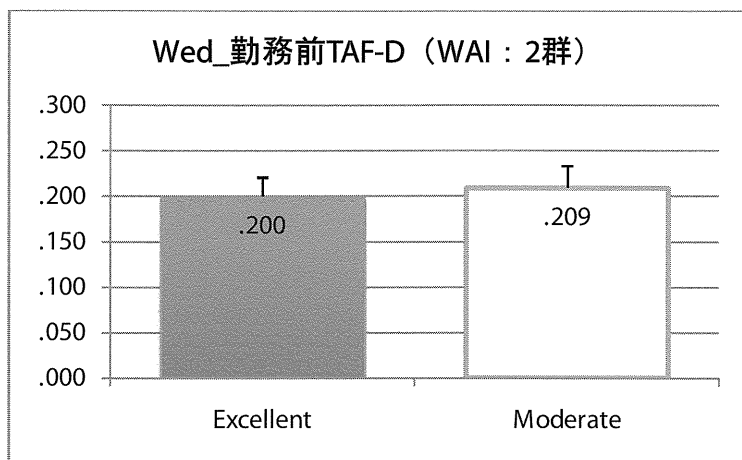


図5-79 水曜日のTAF-D (WAI)

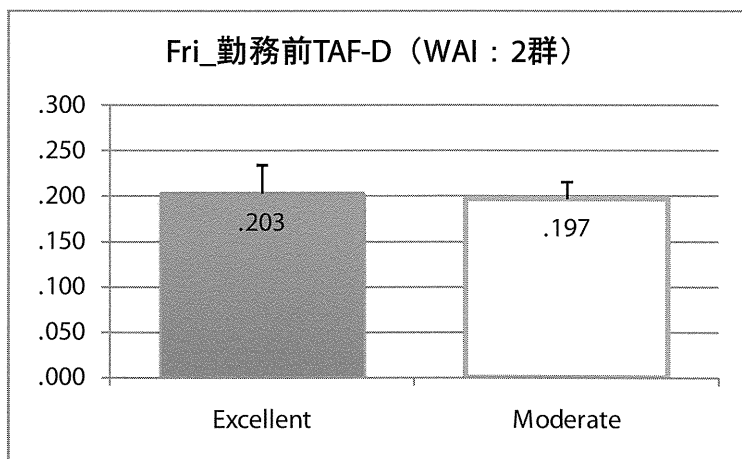


図5-80 金曜日のTAF-D (WAI)

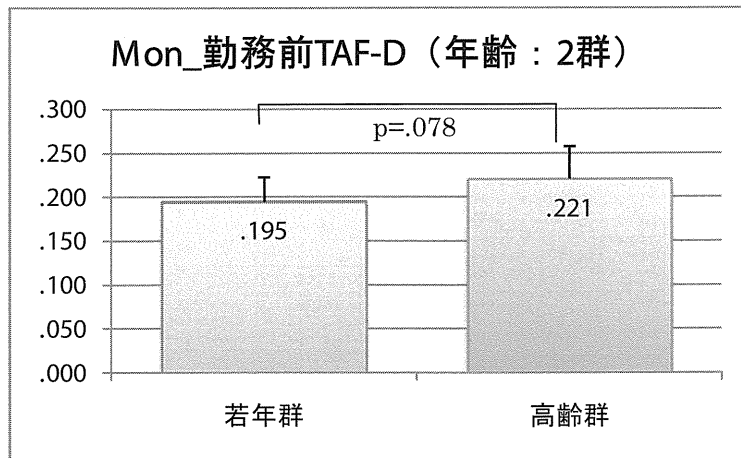


図 5-81 月曜日の TAF-D(年齢)

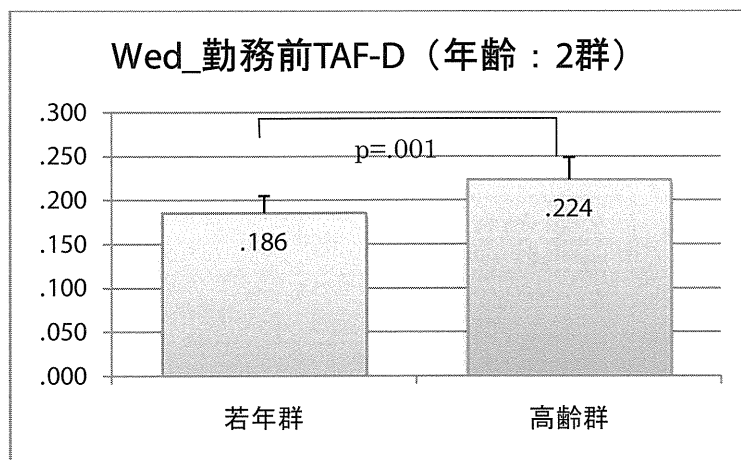


図 5-82 水曜日の TAF-D(年齢)

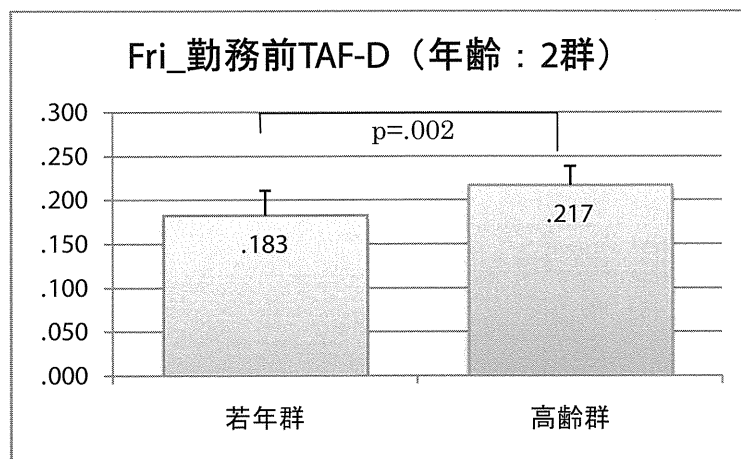


図 5-83 金曜日の TAF-D(年齢)

10) 勤務後の TAF-D

勤務後における TAF-D の測定の結果、WAI と年齢の組み合わせにおいて、最もよい数値を示したのは Excellent-若年群の 0.177 であった。次いで、Moderate-若年群の 0.188 であった。WAI と年齢との交互作用は有意ではなかった ( $p=.303$ )。Tukey 法による 4 群の比較では、以下の組み合わせにおいて有意差がみられた。Excellent-若年群 < Excellent 高齢群 ( $p=.001$ )、Excellent-若年群 < Moderate-高齢群 ( $p=.006$ )、Moderate-若年群 < Excellent-高齢群 ( $p=.012$ )、Moderate-若年群 < Moderate-高齢群 ( $p=.041$ )。WAI の主効果は有意ではなかった ( $p=.815$ )。一方、年齢の主効果については有意差がみられた ( $p<.001$ )。

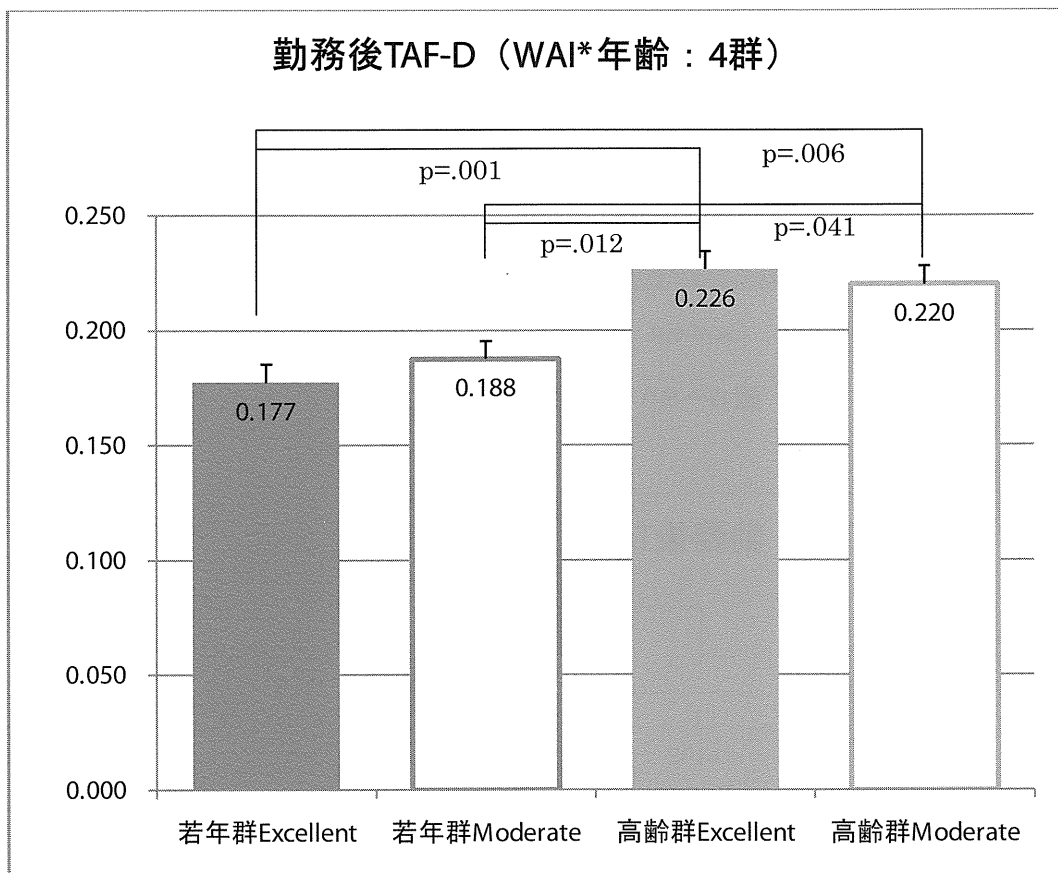


図5-84 勤務後の TAF-D (WAI\*年齢)



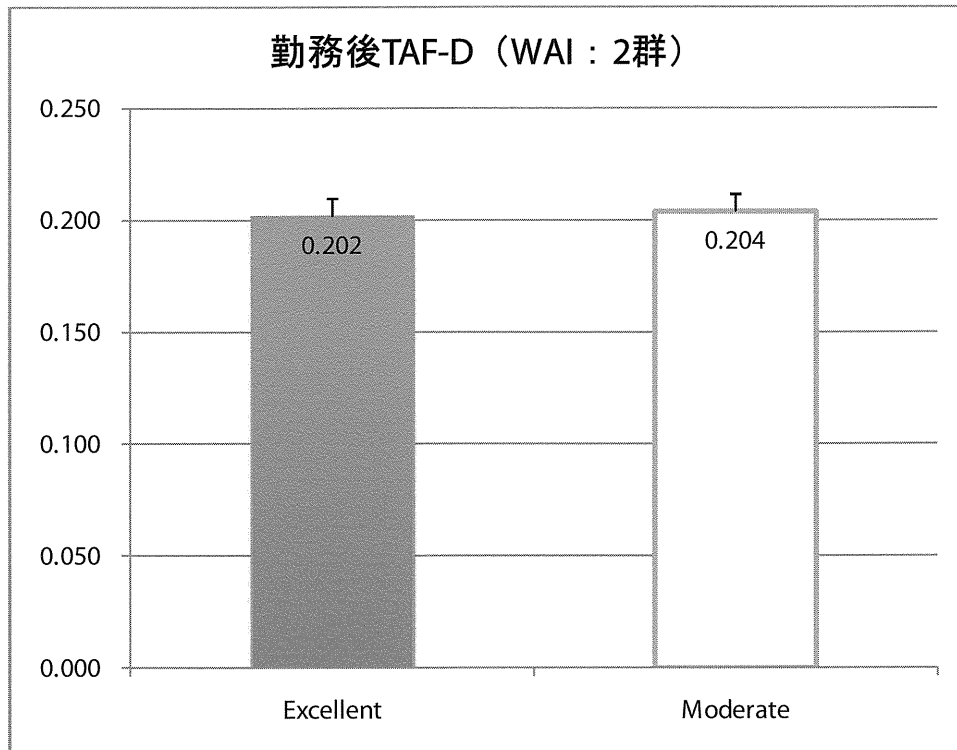


図5-85 勤務後のTAF-D (WAI)

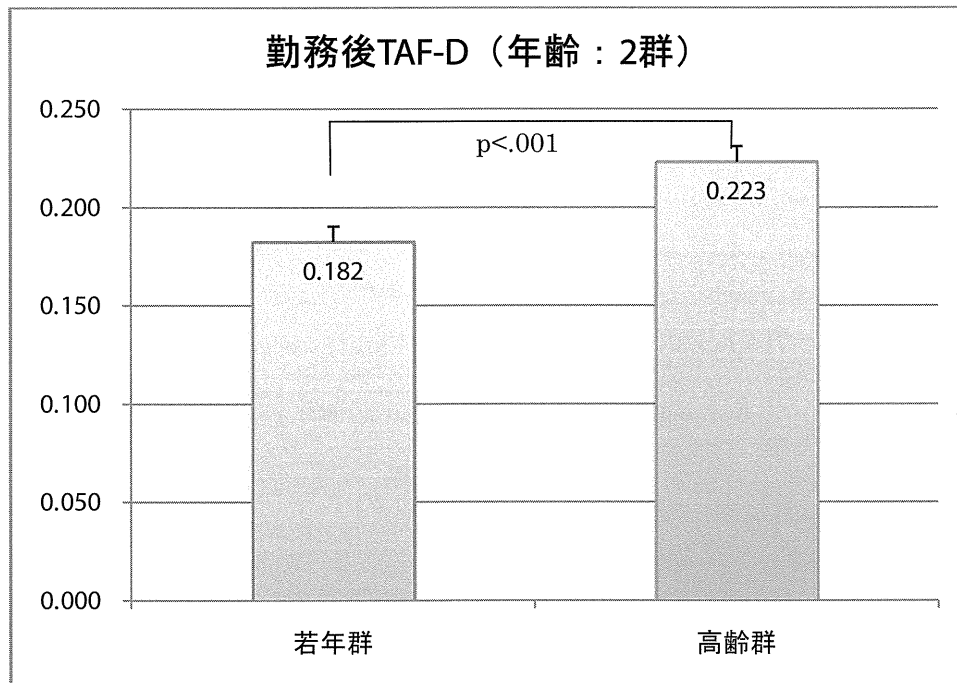


図5-86 勤務後のTAF-D(年齢)

11) 曜日別の勤務後の TAF-D

勤務後における TAF-D の測定の結果について、曜日別に検討を行った。WAI と年齢の組み合わせにおいて、最もよい数値を示したのは、月曜日・水曜日において Moderate-若年群（月曜日の TAF-D=. 190、水曜日の TAF-D=. 181）であり、金曜日において Excellent-若年群（金曜日の TAF-D=. 156）であった。曜日別に 4 群間による分散分析を行った結果、水曜日、金曜日に有意差がみられた ( $p < .001$ ,  $p < .001$ )。また月曜日において有意傾向がみられた ( $p = .056$ )。Tukey 法による 4 群間の比較では、月曜日において Moderate-若年群  $<$  Excellent-高齢群 ( $p = .066$ )、水曜日において Excellent-若年群・Moderate-若年群  $<$  Excellent-高齢群 ( $p = .007$ )、Excellent-若年群・Moderate-若年群  $<$  Moderate-高齢群 ( $p = .001$ ) であった。金曜日においては、Excellent-若年群  $<$  Moderate-若年群 ( $p = .038$ )・Excellent-高齢群 ( $p = .001$ )・Moderate-高齢群 ( $p = .003$ ) であった。WAI と年齢との交互作用は金曜日において有意であった ( $p = .020$ )。月曜日・金曜日においては有意ではなかった ( $p = .484$ ,  $p = .494$ )。金曜日にみられた交互作用は、高齢群においては、WAI の効果がなかった一方で、若年群においては WAI による差がみられたことによると考察される。独立変数の効果として、WAI の主効果はどの曜日においても有意ではなかった ( $p = .121 \sim .500$ )。一方、年齢の主効果についてはすべての曜日で有意であった（月曜日： $p < .001$ 、水曜日： $p = .002$ 、金曜日： $p = .001$ ）。

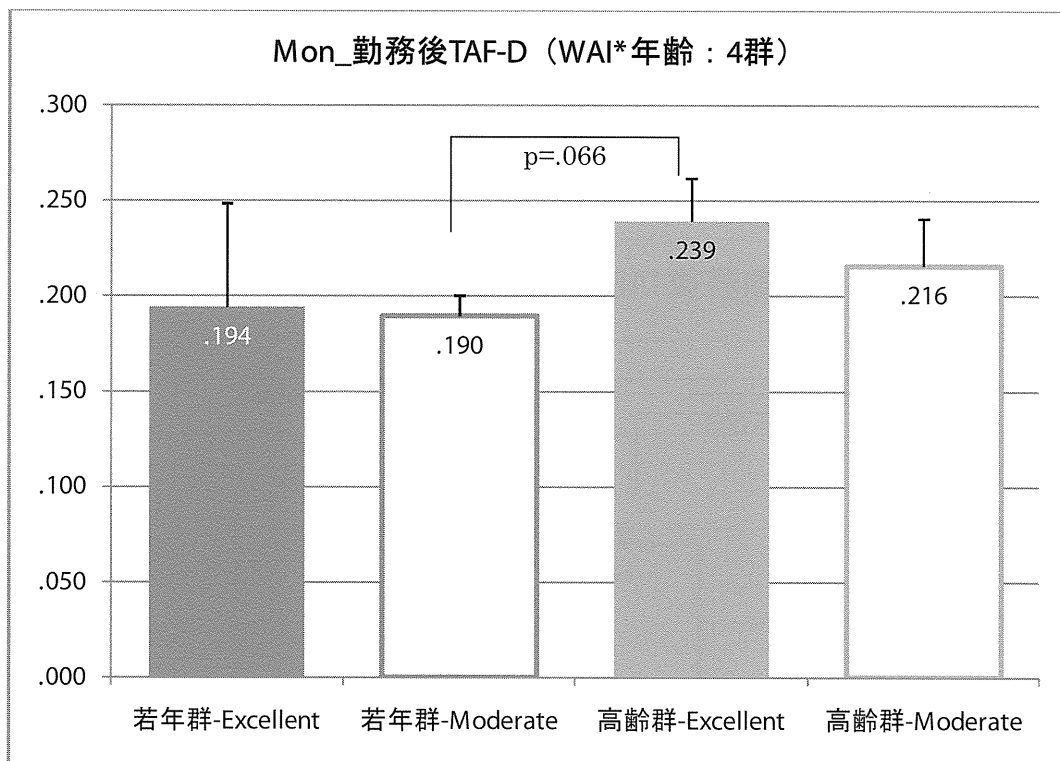


図 5-87 月曜日の勤務後 TAF-D (WAI\*年齢)

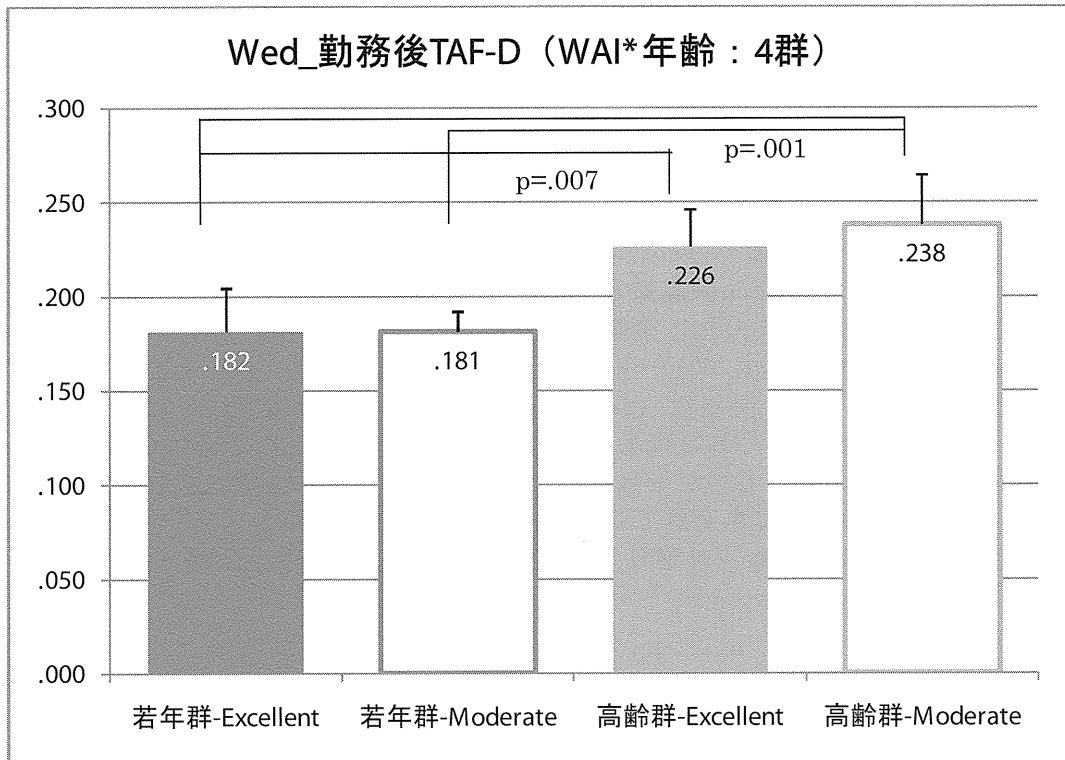


図5-88 水曜日の勤務後 TAF-D (WAI\*年齢)

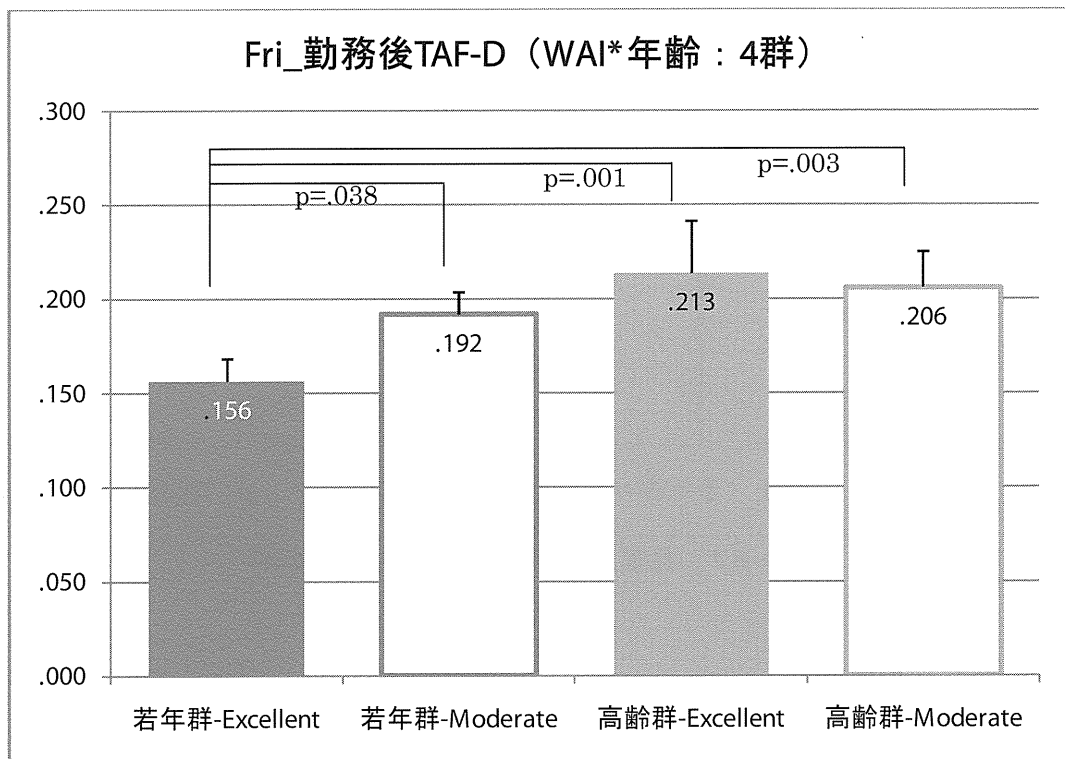


図5-89 金曜日の勤務後 TAF-D(WAI\*年齢)

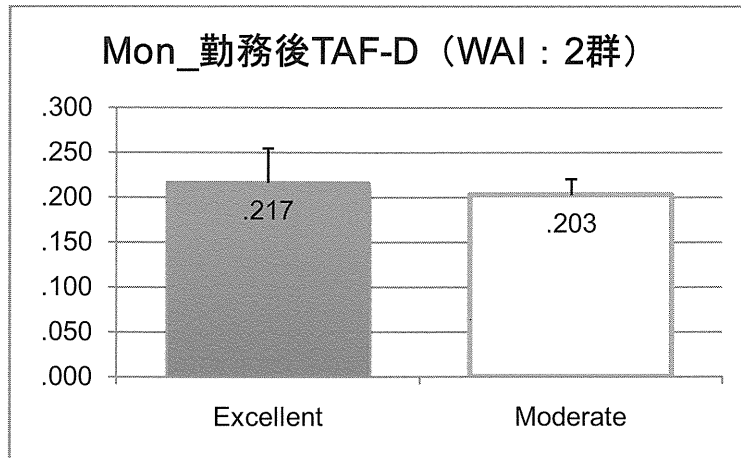


図 5-90 月曜日の勤務後 TAF-D (WAI)

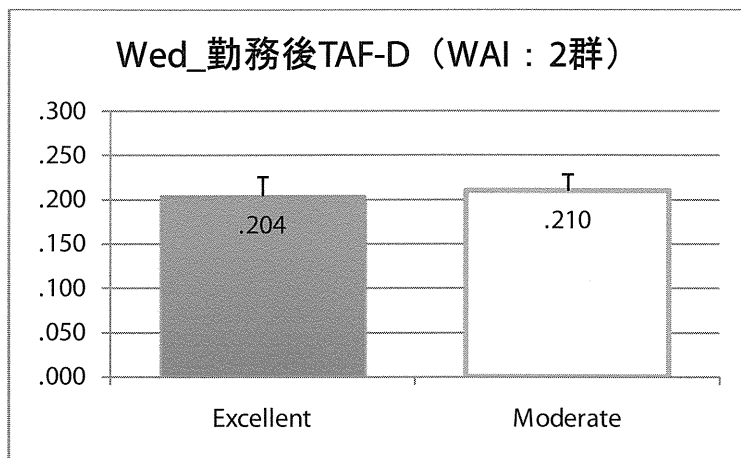


図 5-91 水曜日の勤務後 TAF-D (WAI)

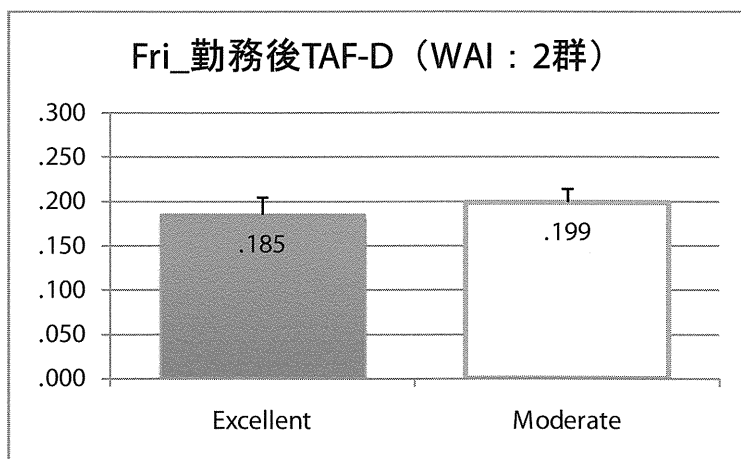


図 5-92 金曜日の勤務後 TAF-D (WAI)